

わが大平 No. 4

発行 平成 22 年 11 月 12 日 (金)

編集 むつ市立大平小学校

大平町 8—6 TEL 24—1291

文責 校長 森脇敏彦

集団行動の緊張感が子どもを育てる！



全校児童が一斉に取り組む、学校の大きな行事（運動会・学芸会・クラスマッチ）が終わり、自分たちでクラスや学校全体の在り方を考える力が全体的に高まってきました。

大きな行事があるごとに全体練習やそれぞれの場面で先頭になる先生方は厳しい表情で指導をしています。一人の気のゆるみが全体の調和を崩してしまうことをこういう機会を通して学んでほしいと思うからです。いつもは優しい先生が厳しいこわい顔をすることで、子どもは全体で行動する時の厳しさを肌で感じるのです。とって、ただがむしゃらに一糸乱れぬ行動をさせたいという考えでやっているのではありません。子どもに「緊張感のかもしれない心地よさ」を味わわせることが子どもの成長にとって大切だと考えてやっているのです。運動会で姿勢良く歩ける子、応援の時に出す声の大小。学芸会の迫力ある演技。縄を回す人と跳ねる人との連帯感、たくさんの新記録が生まれたクラスマッチ等。個人差があるのは当然です。しかし、取り組む姿勢、緊張感のある行動はそれらに関係なく自分自身も含め見ている人の心を打つものです。

緊張感のない集団行動には教育的価値はないと思っています。集団の調和を乱すことがないように気を遣うことは、集団から離れて生きていけない人間にとって、欠かすことができないものです。集団行動には、一人ではできないことでも集団の力を借りればできる、という集団に励まされる側面と、一人ひとりが周りの行動に合わせる、言い換えると個人が積極的に集団の調和を高めるように心遣いをするという側面とがあります。特に後者は、常に周りの様子を感じ取りながら自分の行動を決めていかななくてはなりませんから、なかなかの緊張感を伴うものです。これが人間にとって大切なのです。

集団の調和を乱さないように心遣いをすることは「思いやり」です。自分の属する集団のために自分のわがままをおさえる思いやり、周りの人たちの気持ちを押し量り、それに自分を合わせるという思いやりです。全体と自分の関係を見極める広い心と、時にはわがままを

おさえたり、逆に相手の気持ちを尊重しつつも、自分の主張を貫いたりする心の強さがなくては出来ないことです。

運動会の行進や応援合戦の練習ではありません、学芸会の出し物の練習、縄跳びの新記録への挑戦も同じです。それらを成功させるためにそれぞれの力を高める努力をしながら、心を鍛えているのです。それでもなお、全体に入りきれない子どももいます。練習がいやになり、学校が嫌いになってしまっただけでは元も子もありません。全体には厳しい雰囲気であっても、個人には優しい配慮が必要です。厳しさと優しさの使い分け、これは教育（育児）の原則です。子どもの成長の度合い、理解の度合いは個人によって違います。私たちはそのことを十分考えて子どもの指導に当たっていかねばと考え、学校行事に取り組んでいます。耐震工事によって延びている「校内マラソン大会」が悪天候によって更に延びていますが是非ご協力をお願い致します。



1年生のボール送り。ボールはどこまでいったかな

4年生は初めてのジャンピング10に挑戦です。団結力がよくわかります。

優勝は4年3組の13回でした。



みんながより良い子に育つようにいろいろな人たちが応援しています。

子どもたちの手の大きさに合わせて大きい雑巾、小さい雑巾があります。子どもたち一人ひとりの思いやりが、本当にありがたかったです。



むつ市田名部北地区民生委員児童委員連絡協議会の皆さんからたくさん雑巾の寄贈がありました。